三重県感染対策支援ネットワークAMR研修会

2025年11月4日 オンライン

感染症診療はチーム戦 〜微生物を軸に考えるAMR対策〜

大阪大学大学院医学系研究科 変革的感染制御システム開発学寄附講座/感染制御学講座 大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER) 大阪大学医学部附属病院感染制御部

山本 剛

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contro

Diagnostic Stewardship Antimicrobial Stewardship 患者 臨床的な評価 正しい診断と治療 Diagnostic **Antimicrobial** stewardship (DS) stewardship (AS) ・適切な検査技術 ・適切な抗菌薬 ・適切な時間 •適切な時間 ・適切な患者選択 ・適切な介入 迅速で正確な検査 迅速な検査報告 →微生物検査 1 Clin Microbiol 2017 Mar: 55(3):715-723

1

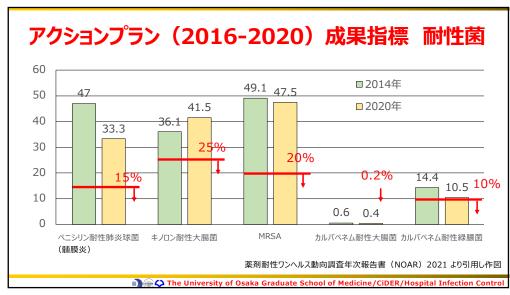
薬剤耐性(AMR)に起因する死亡者数の推定



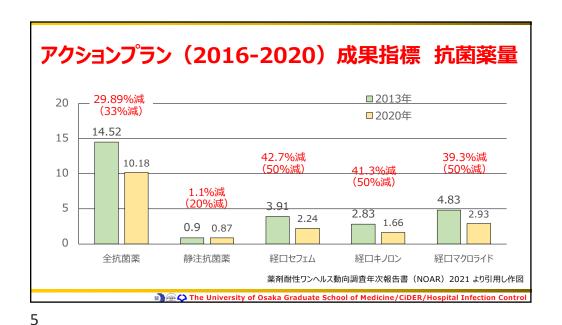
- ・2013年現在のAMRに起因する死 亡者数は低く見積もって70万人
- •何も対策を取らないと、2050年には 死者が1,000万人(がんを超える)
- ・欧米での死亡者数は70万人にとどまり、大半の死亡者はアフリカとアジアで発生すると推測

WHOオニールレポート

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control



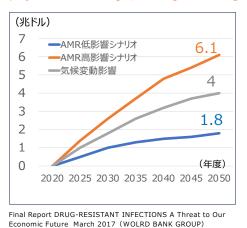
Л





6

気候変動と薬剤耐性菌による世界的GDP損失比較



- ・気候変動と薬剤耐性菌は同等規模の世界的 脅威の位置付けである。
- ・2008~09年の世界金融危機に匹敵する。
- ・一時的ではなく持続的に経済を圧迫する。
- ・低影響シナリオでの対応が必要となる。
- ・年間投資額の差 気候変動:5兆ドル

薬剤耐性菌:数十~数百億ドル

OECD:Report: Climate Finance Provided and Mobilised by Developed Countries in 2013-2022 Global Leaders Group on Antimicrobial Resistance

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

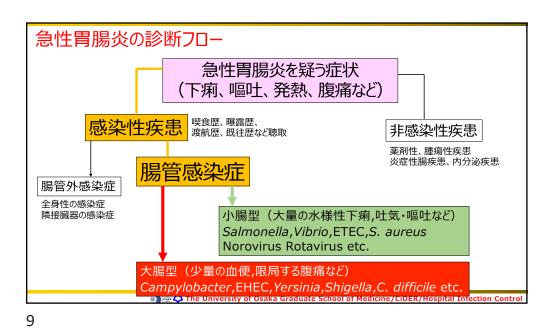
医師が最終診断を決めたきっかけ

項目	最終診断の決め手	95% CI
病歴	76%	65.6~85.9
身体所見	12%	0~33.0
臨床検査	11%	0~31.9
身体所見と臨床検査	24%	4.6~42.9

診断の殆どが病歴と身体所見で決まる

West J Med 1992 Feb;156(2):163-5.

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control





便培養の検査手順 糞便 直接分離培養 増菌培養 1日目 TCBS寒天培地 SS寒天培地 Skirrow培地 Selenite培地 2日目 DHL寒天培地 37℃,好気,18h 37℃,好気,18h 42℃,微好気,48h 37℃,好気,18h オキシダーゼ試験 HIP試験 DHL寒天培地 血清型別 生化学性状 3日目 37℃,好気,18h グラム染色 好塩性の確認 V. cholerae EHEC.ETEC S. Typhi Campylobacter V. parahaemolyticus S. ParatyphiA Shiaella Salmonella The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

6歳7ヶ月の女児(サルモネラ腸炎) 主訴:発熱,腹痛,嘔吐 既往歴:特記事項なし

現病歴:

10

X-1日 AMに頭痛,発熱,腹痛,嘔吐1回

PM嘔吐,腹痛持続,嘔吐2回

X日 発熱と間欠的腹痛あり

喫食歴 2日前に生焼けオムライス



回盲部〜横行結腸まで壁肥厚あり

豊富な血流シグナルと回盲部周囲腸間 膜リンパ節腫大あり

S/O サルモネラ腸炎



■ The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

13歳の男児(カンピロバクター腸炎)

主訴:発熱,腹痛,下痢,嘔吐 既往歴:特記事項なし

現病歴:

X-2日 発熱,腹痛,下痢5回,嘔吐4回

カロナールとミヤBMで様子見

X日 発熱持続,下痢10回に増加

母が同様の症状あり

喫食歴 生ものや鶏肉の喫食なし

回盲部には約26mm大までの楕円形〜円形リンパ節と軽度脂肪織輝度上昇小腸には水様〜泥状便の貯留あり.





The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contro

5歳4ヶ月の女児

主訴:発熱,下痢

既往歴:特記事項なし

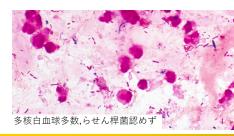
現病歴:

14

X日 AM 発熱,嘔吐,下痢1回 PM 発熱,腹痛,下痢3回

喫食歴 回転寿司,焼鳥,卵焼き etc.

周囲に類症なし

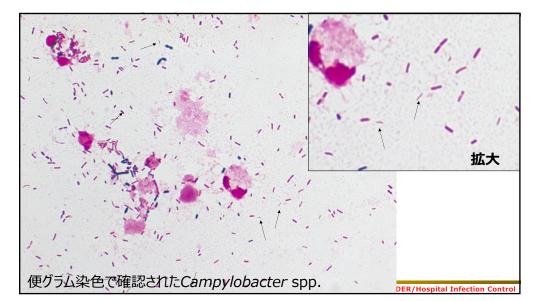


糞便の遺伝子検査(多項目)

Result Su	mmary	
		Bacteria
✓ Detected	d	Campylobacter
Not Dete	ected	Clostridium difficile toxin A/B
Not Dete	ected	Plesiomonas shigelloides
Not Dete	ected	Salmonella
Not Dete	ected	Vibrio
Not Dete	ected	Vibrio cholerae
Not Dete	ected	Yersinia enterocolitica
		Diarrheagenic E. coli/Shigella
Not Dete	ected	Enteroaggregative E. coli (EAEC)
Not Dete	ected	Enteropathogenic E. coli (EPEC)
Not Dete	ected	Enterotoxigenic E. coli (ETEC) lt/st
Not Dete	ected	Shiga-like toxin-producing E. coli (STEC) stx1/stx2
Ø N/A		E. coli O157
Not Dete	ected	Shigella/Enteroinvasive E. coli (EIEC)
		Parasites
Not Dete	ected	Cryptosporidium
Not Dete	ected	Cyclospora cayetanensis
Not Dete	ected	Entamoeba histolytica
Not Dete	ected	Giardia lamblia
		Viruses
Not Dete	ected	Adenovirus F 40/41
Not Dete	ected	Astrovirus
Not Dete	ected	Norovirus GI/GII
Not Dete	ected	Rotavirus A
Not Dete	ected	Sapovirus

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

13



カンピロバクター腸炎における糞便Gram染色の有用性

Pathology (August 2004) 36(4), pp. 343-344

Detection of Campylobacter species in faecal samples by direct

IUI WANG* AND DAVID R. MURDOCH*†

MICROBIOLOGY

*Microbiology Unit, Canterbury Health Laboratories, and †Department of Pathology, Christchurch School of Medicine and Health Sciences, University of Otago, Christchurch, New Zealand

BMJ Case Rep.2014; 2014: bcr2013202876.

Images in..

Rapid diagnosis of *Campylobacter jejuni* by stool Gram stain examination

Kazuhiro Kamata, 1 Yasuharu Tokuda 2

Sensitivity 89% Specificity 99.7%

Gram stain finding of gullwing-shaped Gramnegative rods has good sensitivity and specificity

Gram染色は低コストで迅速に診断と適切な治療へと結びつける検査

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

15

微生物検査におけるヒューリスティックの活用

経験則に基づく問題解決・学習・発見の手法。得られる解は最適解とは限らない。

ヒューリスティックをによる病原体の絞り込みをする

患者の症状や背景情報から絞り込む

- ・陽性結果が臨床症状と一致する場合
- ・陽性結果が臨床症状と一致しない場合
- ・陰性で何も検出されない場合

ヒューリスティックのリスクを考える

- ・直感的判断が誤りにつながる場合がある(例:パターン認識や直近の症例)
- ・希少疾患や非典型的な症例を見逃す可能性
- ・検査の過剰依存による無駄な検査が増える

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contro

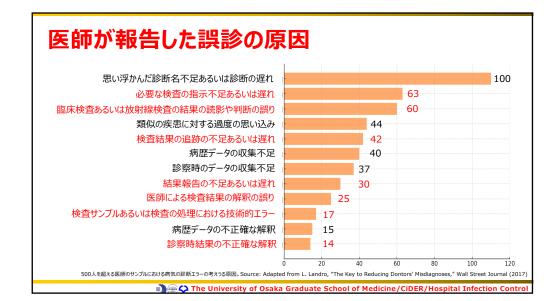
17

監視培養・記念培養臨床的意義が不明確な検査

- ・定期的なカテーテル培養
- ・抜去時のドレーン培養
- ・肺炎モニタリングのための咽頭培養
- ・呼吸器症状のない喀痰培養
- ・固形便による便培養

など

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control



18

糞便培養検査(3 Days Rule)の評価

アメリカ クリーブランドクリニックの調査結果

- ・1,229件の便培養を実施(3日以内980件、4日以降249件)
- ・便培養から細菌性腸炎の優位な菌がどれくらいでるかの調査結果
- ·3日以内 1.8%(18/980)

Campylobacter 11, Salmonella 6, EHEC 1, Shigella 1, Aeromonas 1

·4日以降 4.4%(11/249)

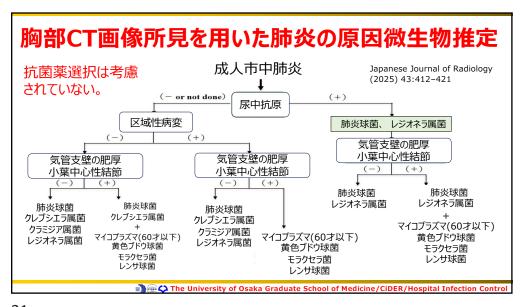
Campylobacter 10, Salmonella 1

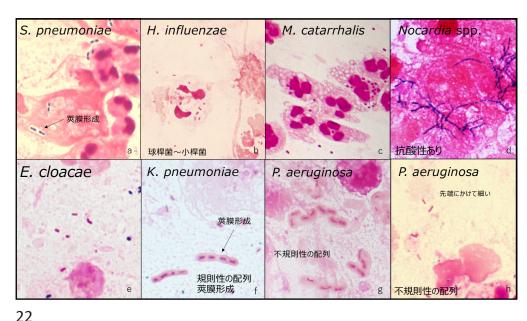
・11ヶ月で試薬代と人件費を \$ 8,000以上削減

「入院してから3日を過ぎた便培養および寄生虫学的検査の価値はほとんどない」

J Clin Microbiol. 2017 Dec:55(12):3350-3354

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control





21

症 例

【患者】80代、女性 【主訴】発熱、咳嗽、嘔吐

【現病歴】1週間前から上気道症状持続していた。本日悪寒と嘔吐、右胸痛を認めER受診。 【既往歴】高血圧、高脂血症、気管支喘息 【薬剤歴】降圧薬(詳細不明)

【バイタルサイン】全身状態不良、意識障害なし

体温 39.5℃, 脈拍105回/分,

血圧140/69mmHg, 呼吸数 30/min,

SpO2: 96%(室内気)

【身体所見】

咽頭発赤あり、腫脹なし

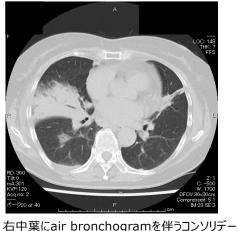
呼吸音:右肺にcrackle聴取あり。



■ The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control



右中~下肺野にシルエットサイン陰性の浸潤 影。心拡大無し、CPangle sharp



石中集にair bronchogramを伴うコンソリテーションあり。左舌区にも浸潤影認める。

■ The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

胸部単純撮影と喀痰Gram染色

胸部単純撮影

胸部単純撮影は異常陰影が全て肺炎を指摘するものではない

しかし,安価で簡単であることに加えて

真の感染症か否か,尤度比(陽性・陰性)について多くの科学的な検討がされて いる

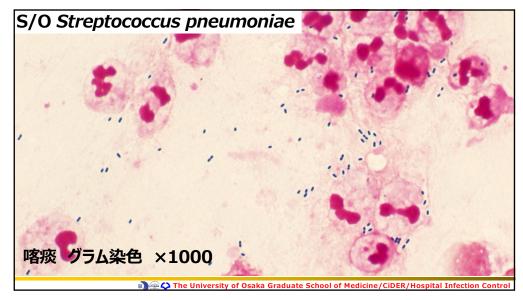
喀痰Gram染色

25

肺炎の部位、病型について指摘するものではない

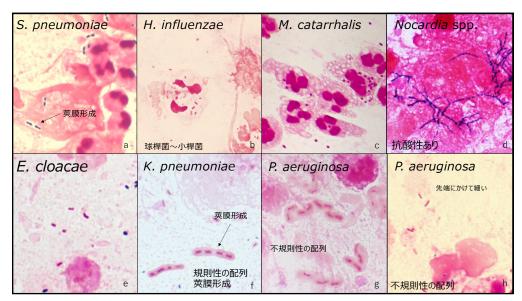
しかし,安価で簡単であるが,誰でも判読出来ないが,慣れれば原因菌の特定 科学的な検討はレントゲン検査に比べて少なく、尤度比は材料の質に左右される

🔊 🥽 🗘 The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control



26

28



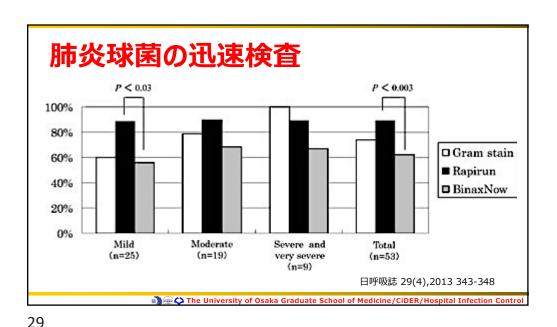
Gram染色なしで 肺炎の原因菌は推定可能か? 尿中肺炎球菌抗原検査

- 肺炎球菌性肺炎の特徴
 - ・悪寒戦慄が1回起こる
 - ・胸膜痛がある
 - ・大葉性肺炎のパターン
 - ・尿中肺炎球菌抗原が陽性

2) インフルエンザ菌による肺炎

- ・肺炎球菌性肺炎に比べて緩徐な経過
- ・COPD患者、もしくは喫煙者
- ・悪寒戦慄がない
- ・気管支肺炎のパターン





Gram染色を用いた抗菌薬適正使用

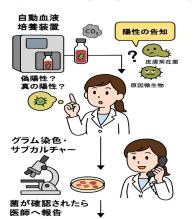
- ・2018~2020年に日本で行われたVAP208症例の多施設共同研究。
- ・グラム染色ガイド下で抗緑膿菌薬と抗MRSA薬の使用が減少した。

評価項目	グラム染色ガイド群 (n = 103)	ガイドラインベース群 (n = 103)	P値
臨床効果	79 (76.7)	74 (71.8)	<.001*
14日以内の抗菌薬終了率	98 (95.1)	94 (91.3)	NA
28日死亡率	14 (11.6)	18 (17.5)	.44
抗緑膿菌薬の投与	72 (69.9)	103 (100)	<.001
抗MRSA薬の投与	63 (61.2)	103 (100)	<.001
escalationをした症例数	7 (6.8)	1 (1.0)	.03
de-escalationをした症例数	67 (65.0)	79 (76.7)	.07

JAMA Network Open. 2022;5(4):e226136. doi:10.1001/jamanetworkopen.2022.6136

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contro

血液培養陽性時に報告する意義



感染症診断のために必要

•感染症認知 感染症か否かの確認のため

・起因菌の確認(コンタミ含む) 起因菌か汚染菌かの判断 Time to Posivility:TTP 菌種の確認

抗菌薬の妥当性確認 薬剤感受性の結果解釈

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

2セット採取の必要性(採血量)

検査の感度が高くなる条件

- ・成人では1人あたり40~50ml/回の採血が必要。
- ・血液培養ボトル1本には10ml採取が必要。



必要な条件は

30

32

①血液培養ボトル1本には10mlは必ず採取する。1回 採血量が10ml未満の場合は、複数回に分けて採血する。

②トータル採血量は40ml(2本×2セット)となるように 採取する。

血液培養のセット別陽性率 1セットでは感度不足。最低2セット以上。 72.3% 80% 60% 40% 20% 0% 1 セット 2 セット 3 セット Weinstein et al. Detection of Bloodstream Infections in Adults: How Many Blood Cultures Are Needed J Clin Microbiol. 2007; 45:3546-3548

2セット採取の必要性 (コンタミネーションの判断)

- ・消毒不十分での皮膚常在菌混入を極力避ける
- ・穿刺時に針に常在菌がつきやすく、分注時は針を交換。
- ・患者によっては皮膚常在菌が原因となる菌血症が存在する。



真の菌血症であれば、2セットとも陽性になる機会が多い。

2セット陽性 →可能性高い

1セット陽性 →可能性は低いが否定できない

PT陰性 →菌血症の可能性は低い



The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contro

血液培養の供給不足に対する影響(アメリカ)

指標	出荷制限前 出荷制限期		変化量
血液培養実施率 (入院患者あたり)	31.3%	25.7%	-5.6pt
1患者あたり培養本数	2.4本	1.8本	-0.6本
単独培養の割合	2.8%	7.9%	3.43倍増
全体の菌血症検出率 (1,000入院あたり)	30.8	25.0	-15.3%
S. aureus	5.6	4.8	-14%
E. coli	8.7	6.6	-24%
S. pneumoniae	1.4	0.6	-57%

Clin Infect Dis. 2025 Sep 10:ciaf498. doi: 10.1093/cid/ciaf498

■ The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

33

Time to Posivility:TTP の臨床的意義

菌量推定

TTPが短いほど初期菌量が多いことを示唆する。重症例や感染源デバイスの強い汚染を示唆する。

菌種推定

一般的にGram陰性桿菌や黄色ブドウ球菌ではTTPが短い。コアグラーゼ陰性ブドウ球菌(CNS)や酵母様真菌、嫌気性菌はTTPが長い傾向にある。

予後予測

短いTTP(例えば<12時間)は死亡率や重症度と相関するという報告がある。

■ Characteristic The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

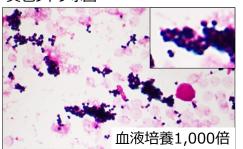
主な起因菌別のTTPとその特徴

菌種/群	<8時間	8~<16時間	16~<24時間	≧24時間	特徴
E. coli	39.3%	35.1%	16.5%	12.7%	TTPが短い、中央値は<16時間
Pseudomonas spp.	1.6%	2.8%	12.0%	4.8%	TTPは長め(16~<24hが多い)
S. aureus	15.5%	17.4%	26.5%	15.3%	中央値は16~<24時間に多い
CNS	<1%	<1%	6.5%	5.2%	TTPは長い (汚染と鑑別必要)
S. pneumoniae	5.3%	6.8%	2.4%	1.5%	TTPは短い(中央値<16時間)
β-streptococci	13.4%	9.6%	2.3%	1.5%	TTPは非常に短い
Enterococcus spp.	3.0%	3.8%	3.7%	1.5%	中央値は16~<24時間に多い
酵母様真菌 (Candida等)	<1%	<1%	<1%	7.0%	TTPは長い (中央値は≧24h,発育が遅い)
嫌気性菌	<1%	<1%	2.7%	15.2%	TTPは長い (中央値は≧24h,発育が遅い)

European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases (2025) 44:1197-1204

🜒 🚋 🗘 The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contro

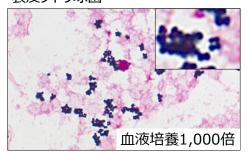
GPC (cluster) 黄色ブドウ球菌



大きめのCluster形成 Oozing Signの確認 菌体の大小不同を認める

全てが治療対象になる

GPC (cluster) 表皮ブドウ球菌



小さめのCluster形成 菌体が大きく、細胞が確認できる

患者背景により治療対象になる

→ The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

S. aureusの菌血症とTTP

Clin Microbiol Infect. 2019 Apr;25(4):481-488.

TTPが短いほど感染性心内膜炎(IE)のリスクと死亡リスクが高い。 目安としてTTP≦13.7時間が高リスク群

TTP	IE発症率	30日後の死亡	備考
<10時間	11.5%	高リスク群	高菌血症負荷を反映 早期死亡リスク大
10-13.7時間	5-6%	25.1%	短いTTP群は死亡率高い
13.8-18時間	4-6%	16.1%	最もリスク低い
>18時間	5.58	記載なし	IEリスク増加 代謝低下した菌が関与がありそう

高齢、余命1年未満の基礎疾患あり、MRSA感染、脳卒中・肺炎合併、CRP高値が死亡率のリスク因子として関連している。

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

37

コアグラーゼ陰性ブドウ球菌(CNS)菌血症の早期 診断に陽性ボトルの本数とTTPは有用か?

- ・2セット(4本)の血液培養ボトルの陽性本数パターンを5分類し、TTPと臨床情報に基づき 菌血症かコンタミネーションかを判断した研究。
- ・CNS血液培養陽性例では、臨床評価に加えて陽性ボトル数のパターンとTTPを組み合わせることで、菌血症が汚染かを早期に鑑別できる。

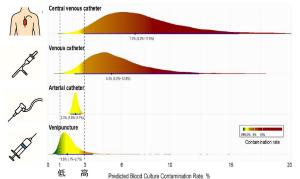
陽性ボトル検出パターン	TTP (Time to Positivity)	解釈 (菌血症の可能性)
4本中1本のみ陽性	限定なし	コンタミネーション (0%)
同一セット内で2本陽性(もう1セットは陰性)	48時間以上	コンタミネーション (22.2%)
2セットで各1本陽性または4本中の3本陽性	48時間未満	菌血症の可能性あり (64.3%)
4本すべて陽性	限定なし	菌血症を強く疑う (100%)

J Infect Chemother 2020,26,672-675.

■ Characteristic Application Control
■ The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

採血部位による血液培養コンタミネーション率の比較

Clin Infect Dis. 2025 Jul 17:ciaf394.



中心静脈カテーテル: 7.2%

末梢静脈カテーテル:5.3%

動脈カテーテル:2.3%

静脈穿刺:1.6%

動脈カテーテルからの採血は静脈穿刺と同程度のコンタミ率である

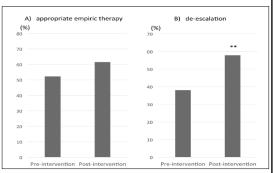
The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contro

血液培養陽性例の介入効果

大阪公立大学病院2017年~18年 重症度に違いはない

- ・微生物検査室からの報告のみ(前)
- ・微生物検査室+感染症医の介入(後) を比較検討

<u>De-escalation率が大幅に増加</u> 28日後死亡率が減少



Int J Infect Dis 2020.11.:100:174-179

微生物検査室から陽性報告時に介入ができると予後改善ができる

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control

11

43

夜間に血液培養が陽性になると死亡率が高い 2001~2005年のアメリカの急性期総合病院 死亡数 血流感染を起こした198名の患者 起因菌 患者数 (率%) 検査室(微生物検査室含む)は24時間で運用している MSSA 46 5 (11%) 70 E. coli 44 5 (11%) 56.6 ■昼・夕方シフト 60 S. pneumoniae 36 1 (3%) ■夜間シフト MRSA 22 6 (27%) 50 43.4 E. faecalis 14 3 (21%) 40 K. pneumoniae 14 2 (14%) 30 18.8 P. aeruginosa 10 2 (20%) 20 6 β-Streptococcus 3 (50%) 9.3 10 C. albicans 2 1 (50%) Ω E. cloacae 2 0 (0%) 2 S. marcescens 1 (50%) 培養陽性率(%) 死亡率 (%) 合計 198 29 (14.6%) Am J Clin Pathol 2008;130:870-876. Fig.2とTable3 を著者改変

■ The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Contr

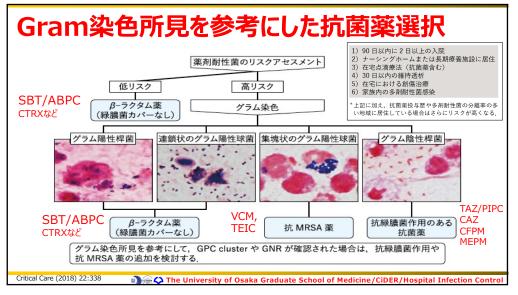
Gram染色のTATが短くなると死亡率が低い

血液培養陽性となってからGram染色報告までの時間が1時間未満だと死亡率下がる

項目	<1時間群	≥1時間群	P値
陽性時間(TTP) (h)	13.7	13.6	0.7860
Gram染色TAT (h)	0.1	3.3	<0.0001
死亡率 (%)	10.1	19.2	0.0389
在院日数 (日)	11.0	10.5	0.6936
陽性後在院日数 (日)	7.9	7.7	0.7920

Am J Clin Pathol 2008:130:870-876. Table1 を著者改変

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control



微生物検査の適切な解釈により

抗菌薬の適正使用に {繋げていく 繋がるようにする

グラム染色から 血液培養陽性例から

抗菌薬適正使用支援

正しい診断(感染源のコントロール)と共に、正しい薬剤感受性検査の結果を確認する。

The University of Osaka Graduate School of Medicine/CiDER/Hospital Infection Control